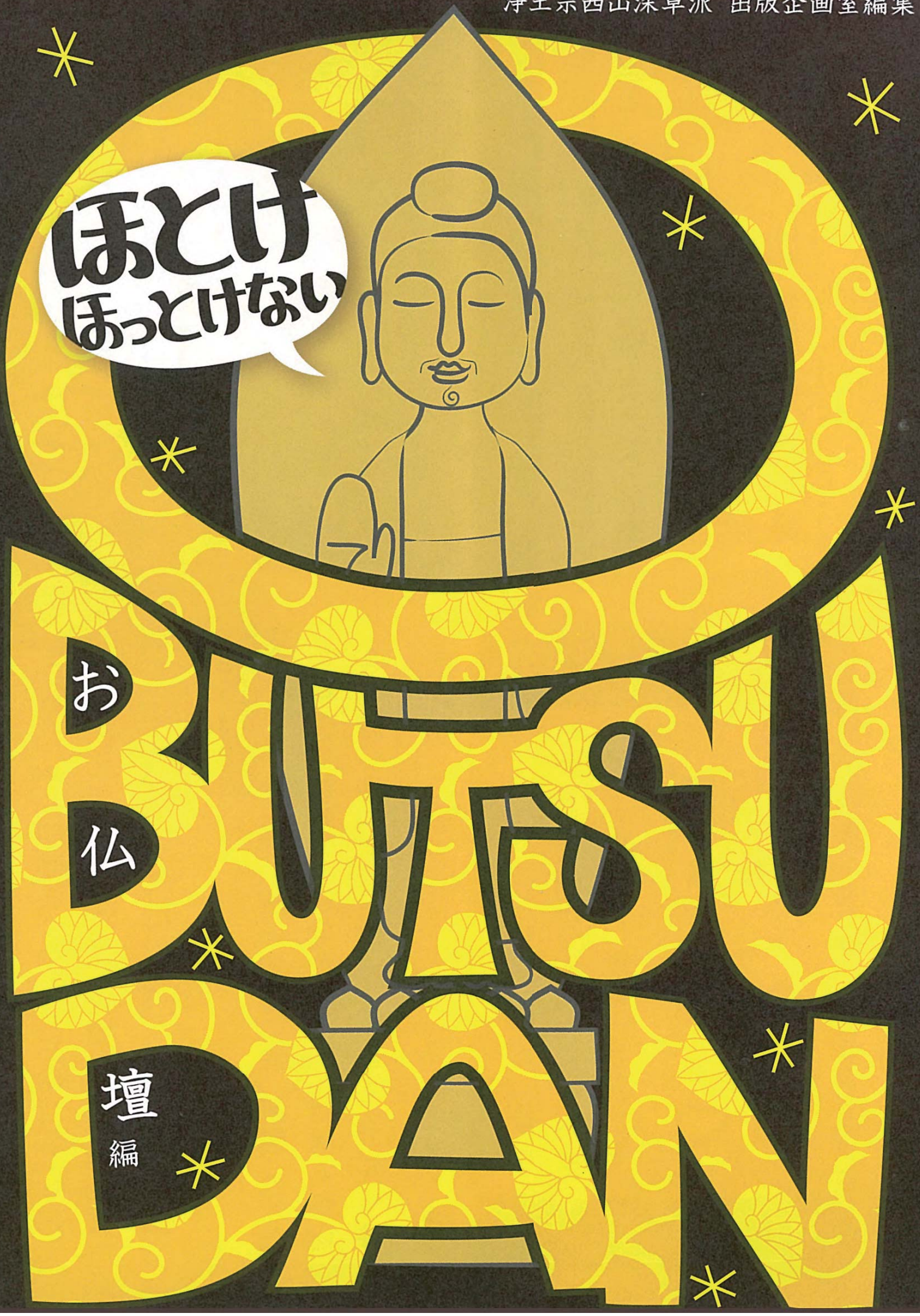
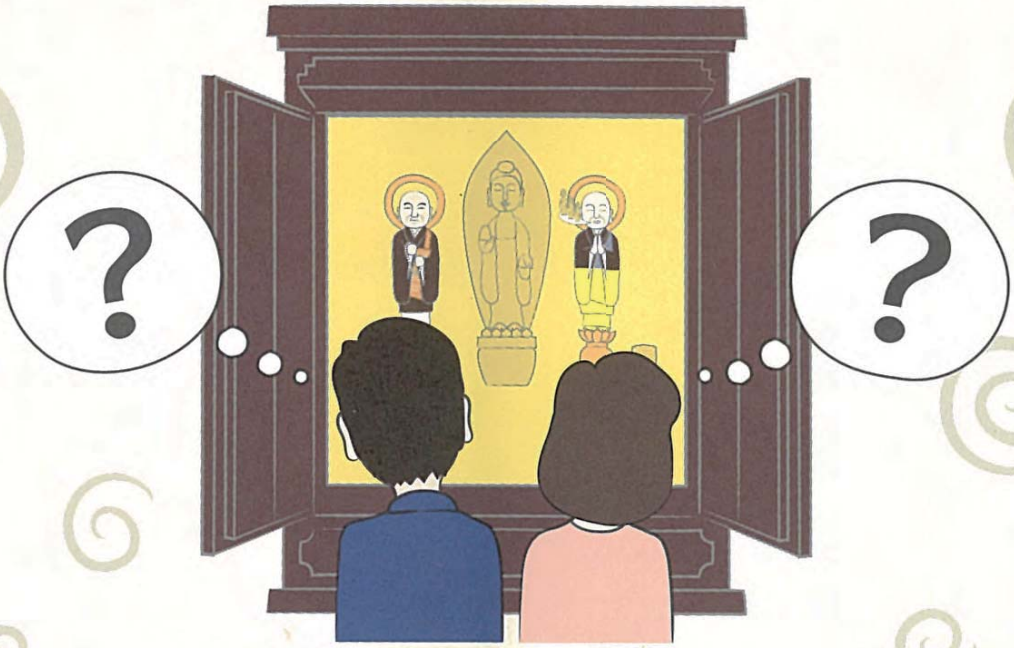
浄土宗西山深草派 出版企画室編集



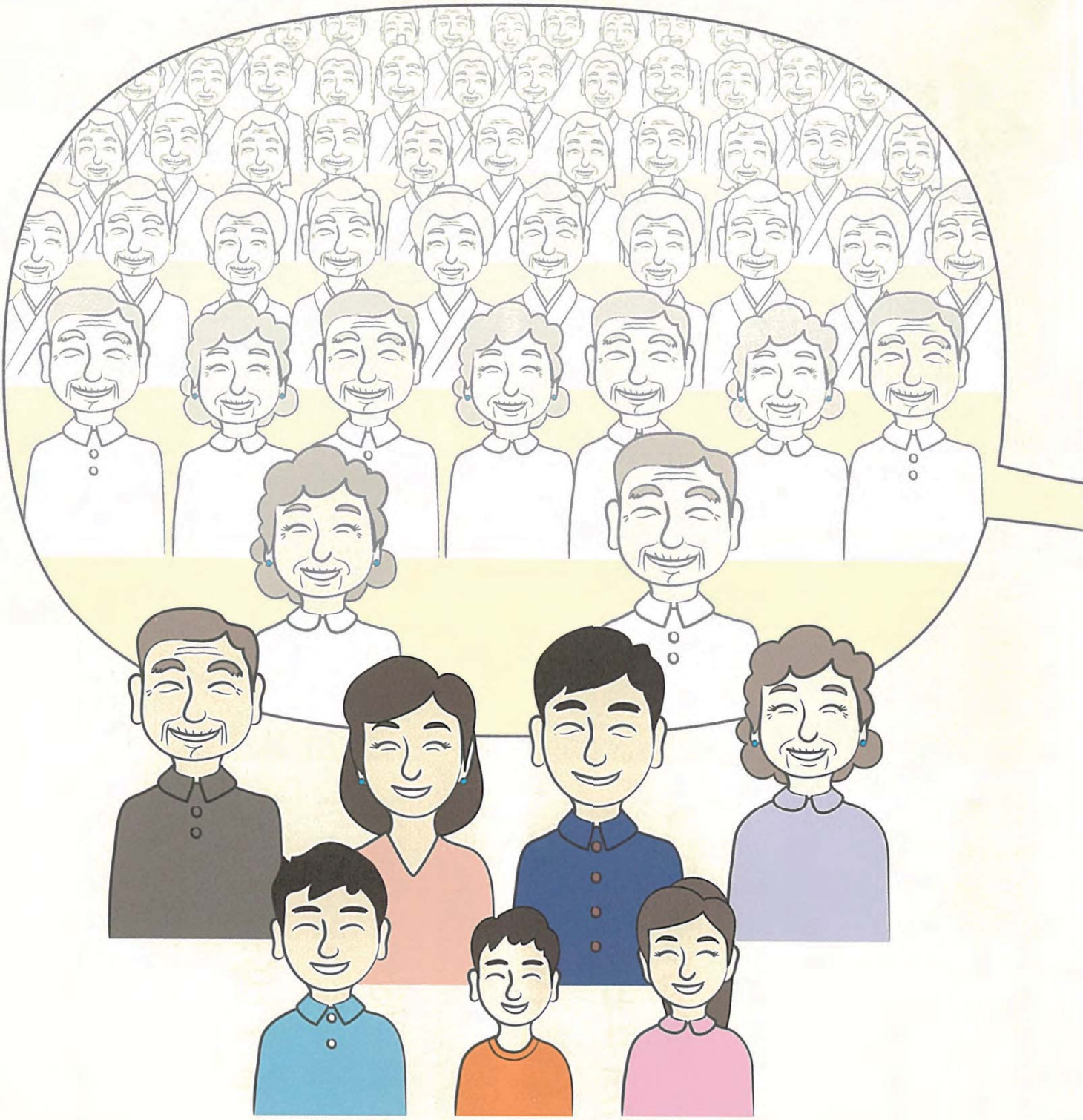
お仏壇とご供養

お仏壇のちゃんとしたお供えの仕方ってご存知ですか？知らないこともたくさんありますよね。そもそもお仏壇ってなんでしょうか？家にあるからなんとなくお供えしている？あまり興味はない？まぁそうでしょう。若い人ならそれが普通だと思います。ここではそんなお仏壇のことや、よくわからない「供養」のことがちょっと面白くなる話をしましょう。



そもそもお仏壇ってなに？

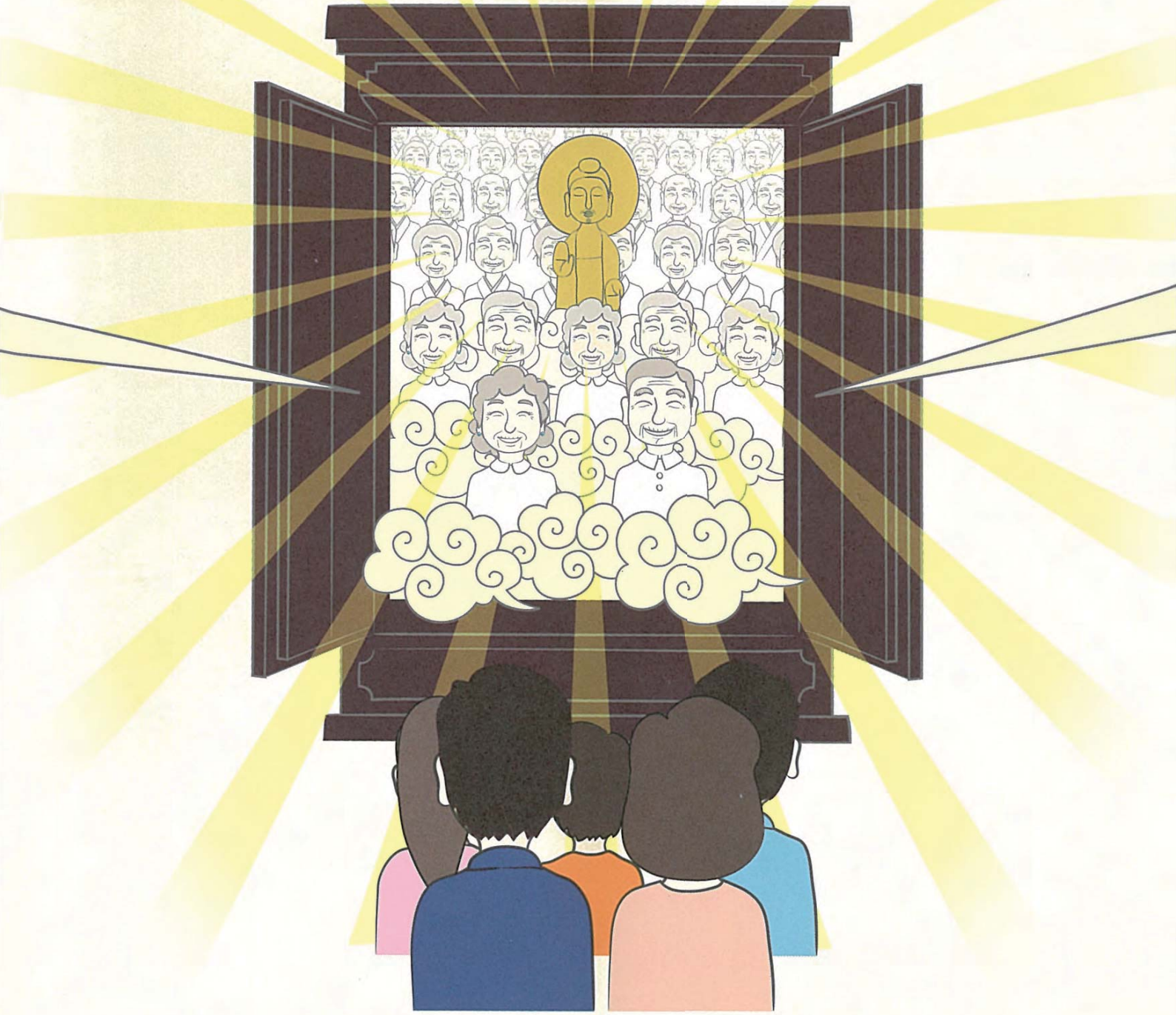
さて、まず考えてみましょう。あなたの命はどこから来たのか？あなたの身体の半分はお父さん、半分はお母さんから頂いたものです。そして、お父さんお母さんはそのまたお父さんお母さん（お爺ちゃんお婆ちゃん）から半分ずつ頂いています。ということは、あなたの身体の４分の１ずつは、それぞれお爺ちゃんお婆ちゃんからもらっているとも言えますね。そうやってひー爺ちゃんひー婆ちゃんも、ひーひー爺ちゃんひーひー婆ちゃんもあなたの身体に宿っているわけです。ひいては、あなたの身体をかたち作る細胞のひとつひとつに、あなたのご先祖さま全員の生命が宿っていると言って良いでしょう。



命はじぶんのもの？もらったもの？あげるもの？

いつか、あなたがお父さんお母さんになる日が来たら、その時はあなたと奥さん、もしくはあなたと旦那さんでまた半分ずつ子供に分け与え、ご先祖さまから受け継いだ命を未来につないでいくことになります。そして、人は誰しもみんな、いつか必ず命が尽きる日が来ます。でも、こうしてあなたが親からバトンを受け、子供にバトンを渡したこの命のリレーはずっとずっと続いていくのです。

私たちの普段の生活の中で、この「命のリレー」を思い出させ、教えてくれるのがお仏壇です。

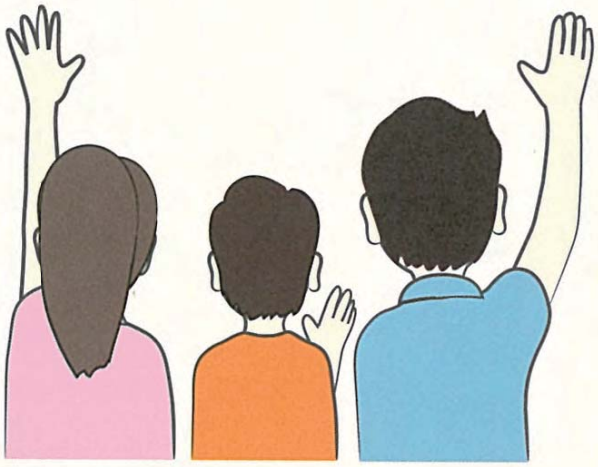


では、そのお仏壇の中をのぞいてみると…、ごちゃごちゃといろんなものがあって、やっぱり正直よくわかりませんよね。これがなにかと言いますと、お仏壇の中というのはお経に描かれている極楽浄土の様子を再現したもので、中央に配されたご本尊の阿弥陀さま、その周囲のお位牌やいろいろな彫刻・装飾にもそれぞれ意味があり、つまりは極楽の「ミニチュア」のようなものなのです。

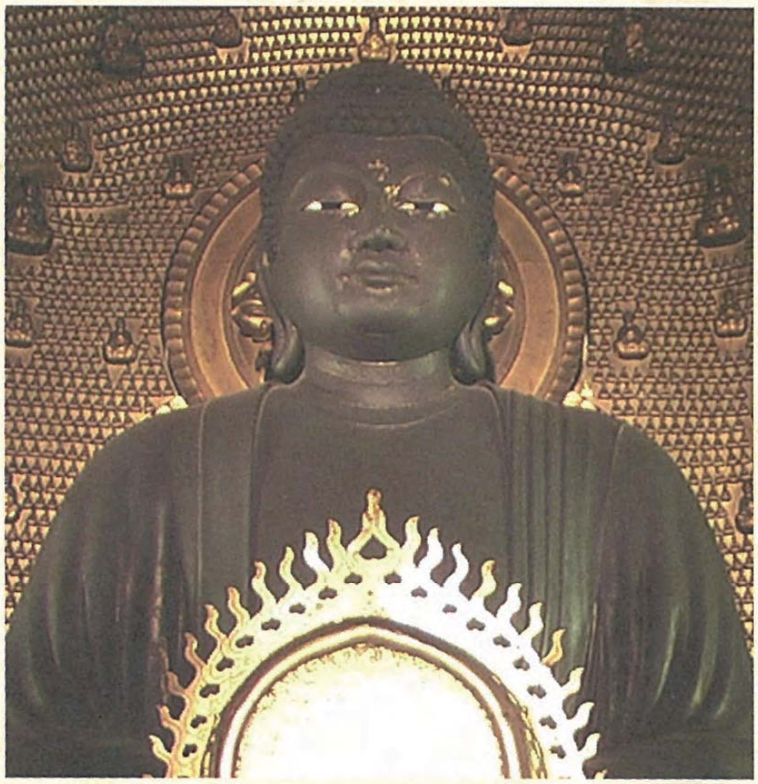
※お仏壇の詳しいことはこのしおりの反対面をご覧下さい。

実は、このお仏壇という小さな極楽の「ミニチュア」の中に、亡くなったご先祖さまがいらっしゃいます。それが阿弥陀さまに見守られるように並んでいるお位牌です。「昔、火事のときには通帳とお位牌を持って逃げた！」というような話を聞いたことはありませんか？最近では、東日本大震災で瓦礫の下からお位牌を探し出したり、修復したりするボランティアが大変喜ばれたそうです。このことからも、お位牌は亡き方々の分身として、またその方々と私たちをつなぐ絆（きずな）として、大切にされてきたことが伺えます。

便りがないのは元気な証拠！と言いますが、やはり便りがないのは寂しいものです。もちろん「寂しいから」といってご先祖さまが私たちを祟（たた）ったりされることはありませんが、ご先祖さまは極楽浄土で仏さまとなられ、日々、子供たち孫たちの幸せを見守ってくださっています。そのお気持ちに、できれば一日に一度、三日に一度でもかまいません、できるだけでいいのです。家のお仏壇の前に座って「今日も元気ですよ、ありがとう。」と挨拶する、それこそがなにより一番心のこもった「供養」と言えるでしょう。



コラム 阿弥陀如来と極楽浄土



【阿弥陀如来像】 総本山誓願寺本尊
極楽浄土の主、浄土宗のご本尊さまです。

阿弥陀さまは正式には「阿弥陀如来」と言い、「如来（にょらい）」と言う最上位の仏さまです。私たち人間は罪深く、ともすれば地獄に落ちてしまいそうになりますが、「南無阿弥陀仏」とそのお名前をとなえれば、一切の苦しみから解放された「極楽浄土」へ迎えてくださる仏さまです。

阿弥陀さまの〝アミダ〟とは、直訳すると「無量寿（むりょうじゅ）」または「無量光（むりょうこう）」という意味で、「量り知れない命」「量り知れない光（または輝き）」と言い換えることができます。これはすなわち「すべての命」、そしてその「命のつながり」、また「絶え間なく照らす光」「苦しみを取り除き、楽を与える慈しみの光」ということです。

自分の身に振り返ってみますと、それは私たちの命をつないでくれたご先祖さま、またその命をつなぐためにいただいた動植物たちの命、さらにはすべての草木国土…。阿弥陀さまは極楽の教主（きょうしゅ）であるというだけでなく、私たちをとりまくそれらすべての存在そのものに他なりません。

人は、この世に生まれて生きていく上でさまざまな苦しみに出会います。そのほとんどが、大抵はなんとか切り抜けることができるものなのかもしれません。しかし、誰もがどうしても切り抜けられないもの、逃れることができないもの、それが「死」です。その「死」への恐れから、人はまたさまざまな苦しみを増大させてしまうことでしょう。そのような私たち人間の姿を見て、「何とか救ってやりたい」とお考えになられた仏さまが阿弥陀さまです。

この世で最期の時を迎え、極楽に往くことを「往生（おうじょう）」と言い、極楽で阿弥陀さまのお説法をいただいて仏になることを「成仏（じょうぶつ）」と言います。

お念仏を称える人は、極楽に咲く蓮花のつぼみに生まれる。

私たちが極楽に往きますと、そこにある蓮花（はすのはな）のつぼみの中に宿ります。まるで母親の胎内に赤ん坊が宿るかのようにです。その蓮花のつぼみが花開く時が極楽に生まれる時、すなわち「往生」が成った時であるとお経の中に説かれています。

そしてそこに生まれた人々は、天人や菩薩さま、昔懐かしい人とお話をしたり、心地よい音楽を聴きながら空中を漂ったり、仏さまにお花を供えたり、お経を読んだりと思い思いに楽しみながら功徳を積むうちに、やがてこの世で苦しむ人々を救う仏さまと成り、「成仏」するのです。

「ほとけほっとけない」

次号以降のラインナップ！

◆ **お葬式編** ～ちんぽんじゃがらん!?～
お葬式・戒名について

◆ **お念仏編** ～ナムアミダブツって何？～
仏教史・宗旨について

◆ **お参り編** ～あの人は今～
お墓参り、お寺参り、月参りについて

◆ **お施餓鬼編** ～脱地獄！～
行事と法要について

※内容を変更する場合があります。

発　行：浄土宗西山深草派
編　集：浄土宗西山深草派
教学部 出版企画室
住　所：〒604-8035
京都市中京区新京極桜之町453
総本山誓願寺宗務所内
メール：office_sk@fukakusa.or.jp
電　話：075-221-0958

デザイン・イラスト
Moonlite Graphics　掛札 英敬

お仏壇

お仏壇は、お寺の本堂を小さくしたもので、極楽浄土の様子が再現されています。

◆ これは一例です。仏壇によって無い場合や配置が異なる場合もあります。住職の指導、地域の慣習、家の伝統を優先してください。

法然上人（向かって左）
お念仏の元祖。
浄土宗の宗祖。
墨染め衣のお姿。

阿弥陀如来（真ん中）
極楽浄土の仏さま。浄土宗のご本尊さま。「南無阿弥陀仏」の阿弥陀さま。

善導大師（向かって右）
法然上人が師と仰ぐ、唐（昔の中国）の高僧。
半身が金色。

華瓶
華瓶には水をいれます。樒などの青木をさす場合もあります。故人にではなく、ご本尊を敬うためにお供えします。
※浄土宗のお仏壇で「華瓶」は必須の仏具ではありませんが、地域によっては具える場合もあります。

常花（蓮華）
極楽に咲く花。泥水の中から生じ清浄な美しい花を咲かせる姿が仏の智慧や慈悲の象徴とされます。仏像の台座も蓮華で、お位牌にも蓮が施してあったりします。
※常花がない仏壇もあります。

お位牌
故人の戒名を書き入れてあります。
古来より、故人の依代で霊が宿るとして、お位牌はとても大切にされています。

蓋付香炉（火舎香炉）
仏前を清めるお香を焚くための香炉。
法事など特別な時、使う場合があります。

高杯（供物）
果物やお菓子など仏さまへのお供え物です。故人の好物をお供えしたりもします。初物やいただき物はお供えしましょう。

過去帳
過去帳はその家の系譜です。ご先祖さまやその家に有縁の故人を記して永続的に家庭で守り伝えていく大切なものです。

お鈴
お経を読むとき、お念仏を称えるときにお鈴を打ちます。

木魚
お経を読むとき、お念仏を称えるときに木魚を打ちます。魚の形をしているのは、魚は日夜を問わず目を閉じないことから、寝る間を惜しんで修行に精進しなさいという意味だと言われています。

経机
お経を読むための机です。
できるだけキレイにして、お経本とお鈴以外のものは乗せないのが理想です。

お仏飯（お仏供さん）
炊き立てのご飯を山盛りにしてお供えします。朝にお供えするのが理想です。下げたご飯はいただきましょう。

お水（茶湯）
新鮮なお水をお供えします。毎朝が理想ですができる範囲でお供えしましょう。下げたお水は植物にあげるといいですね。

花立（仏花）
常に新鮮な花をお供えするのが理想ですが、できる範囲でお供えしましょう。
※棘や毒のある花は避けましょう。

灯明（ローソク）
朝夕のお勤めで明かりを灯すのが理想ですが、できる範囲で献灯しましょう。灯明は闇を照らし、あらゆる障りを除きます。まさに、わが身を削って周りを明るくする仏さまの御心をあらわします。

香炉（前香炉）
朝夕のお勤めで線香を供えるのが理想ですが、できる範囲でお供えしましょう。立てる本数は1～3本が多いようです。香炉は3本足で1本を手前にして置きます。
香は私たちの心身を清め、香炉は私たちの心をあらわしています。香炉はできるかぎり掃除をしましょう。線香の燃え残りを除き、灰をならします。

◆ 香炉、灯明、仏花は手の届きやすい所にお供えすることがあります。

「灯明」と「花立」がひとつの場合は、向かって右が「灯明」で、左が「花立」となります。

お勤め
毎日、朝と夕のお勤めが理想です。ローソクを灯し、お線香を焚いて、お数珠を左手にかけて、お経本を読みましょう。忙しい時は、手を合わせ「南無阿弥陀仏」とお念仏をお称えするだけでも、大切な人たちは喜んでくださいます。

お霊供膳

おりょうくぜん、おりくぜん、など呼ばれ方は様々です。一汁三菜の精進料理をお供えしましょう。

◆ 命日やお盆やお彼岸などにお供えします。肉や魚、五辛（ねぎ、にら、にんにく、らっきょう、あさつき）などの食材は避けます。
こちらも一例ですので、やはり住職の指導、地域の慣習、家の伝統を優先してください。

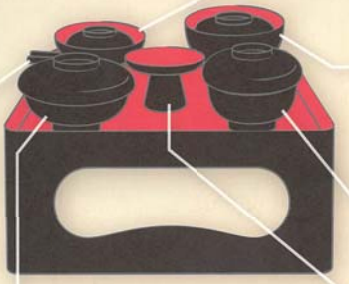
↑ お仏壇側

【盛り付け例】

※「平」と「壺」の配置が逆の場合もあります。

お箸
仏さま（食べる側）からみて、箸の先を左にむけます。

↑ お仏壇側



汁椀
器　：落とし蓋です。
中身：味噌汁、吸い物など

飯椀
器　：ご飯に蓋をのせます。
中身：ご飯を大盛にします。

壺
器　：かぶせ蓋です。
中身：酢物や煮物など

平
器　：かぶせ蓋です。
中身：煮物など

高杯
器　：蓋はありません。
中身：漬物や和え物など